

令和3年度

事業計画及び予算書

公益財団法人いばらき文化振興財団

目 次

I 事 業 計 画 1 ~ 14

II 収 支 予 算 15 ~ 19

I 事 業 計 画

基本方針	1
1 公益目的事業1 [公1] (文化振興事業)	2 ~ 7
2 収益事業1 [収1] (県民文化センター自主事業)	7 ~ 8
3 公益目的事業2 [公2] (水族館事業)	8 ~ 13
4 収益事業2 [収2] (水族館売店事業)	13 ~ 14
5 法人運営	14

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。また、公益財団法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、収支の均衡した健全で責任ある経営に努めるものとする。

令和3年度は、県民の自主的・個性的な文化活動の支援奨励とともに、文化芸術の担い手の育成や様々な文化芸術公演に接する機会の提供、県民の文化活動の拠点施設である「茨城県立県民文化センター」の管理運営、子どもから大人まで楽しみながら学ぶ海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

さらに、新型コロナ感染症に対しては、国や県等の動向を注視し、利用者の安全が確保できるよう引き続き防止対策の徹底を図るほか、新しい生活様式のもとで利用促進に重点を置いた施策を積極的に展開し、両施設の機能が十分発揮できるよう管理運営に当たるものとする。

1 文化振興事業

(1) 文化振興推進事業

コロナ禍においても、県内で活発な文化芸術活動が推進されるよう、県内各地で活動する文化活動団体等に対する支援の充実と、広く県民が文化芸術に参加する機会の創出やそれを支える担い手の育成強化などにより、個性豊かな本県文化形成を推進する。

(2) 茨城県立県民文化センター指定管理事業

第4期指定管理期間（令和3年4月1日から令和6年3月31日までの3年間）の1年目として、新型コロナ感染症対策を徹底しながら、施設利用者が安全安心で快適に施設が利用でき、文化芸術の振興と県民の文化水準の向上に寄与できるよう施設運営に努める。

2 水族館事業

昨年度、開館以来の大規模リニューアルを行ったクラゲ水槽整備やミュージアムゾーン改修、異業種とコラボし開催する開館20周年記念事業、新たな魅力向上を促進する生物展示等で従来の水族館ファンのみならず、新たなファン層をも取り込む進化し続ける水族館を目指す。

<財団全体の施設年間利用者目標数>

・茨城県立県民文化センター利用者数	480,000人
・アクアワールド茨城県大洗水族館総入場者数	1,011,550人
合計	1,491,550人

1 公益目的事業1（文化振興事業）

（1）文化振興推進事業

今まで培ってきた実績等を活かしながら、広く県民が参加し文化芸術を創出する事業への取り組みや文化の担い手育成の強化、文化活動団体等へ中長期支援により文化芸術振興の拡充に努める。

ア 文化芸術活動への助成、情報の発信

コロナ禍における、創意・工夫を凝らし積極的に文化活動を行う団体等に対して事業の一部を助成するとともに、年度内の追加募集や新たな取り組みによる施策により、県民の自主的・個性的な文化活動への支援を拡充する。

項目	当初募集	追加募集	合計
助成交付件数	48件	15件	63件
助成予定額	16,009千円	3,991千円	20,000千円

※追加募集期間：令和3年7月1日（木）～8月31日（火）

（ア）申請書類等の電子化による利便性の向上

押印を省略した申請書類等の電子化と24時間申請可能なオンライン環境を整備し利便性の向上による利用団体等の増と事務効率化を図る。

（イ）コロナ禍における活動支援の拡充

文化活動団体等に対する事業費の一部助成だけでなく、追加募集や映像配信を活用した成果発表、他の活用できる助成金の案内など、きめ細かな支援体制を講じる。さらに、県内の文化活動団体等の活動をWeb上で紹介し、県民への情報提供を行うなど、県内文化活動団体等の活性化を支援する。

（ウ）新たな助成対象事業枠の制定による活性化支援

通常活動を更に発展させた周年・記念事業等における新たな助成枠の制定を検討し、文化活動団体等の活性化への支援強化に努める。

イ 参加創造事業

県内在住・出身の新進演奏家への発表の場の提供を推進した支援や、新しい生活様式を踏まえた動画配信等への対応、広く県民が参加できる事業や次年度に向けた公演企画を公募するなど、コロナ禍における停滞しつつある文化振興の拡充を図る。

また、ソーシャルディスタンスを保った客席数でも適切な価格設定で鑑賞しやすい環境を整備するため、公的助成金や企業協賛金を積極的に獲得していく。

実施日	公演名	会 場	入場者数 (有料)
7月17日(土)	新進演奏家ステップアップ事業 「いばらき応援コンサート」(動画配信)	小ホール	230人
7月31日(土)	新進演奏家ステップアップ事業 「いばらき応援コンサート」(動画配信)	小ホール	230人
9月26日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「第47回茨城県新人演奏会」(動画配信)	大ホール	500人
10月24日(日)	担い手育成事業(企画公募) 「親子で楽しむ0歳からのコンサート」(動画配信)	小ホール	200人
11月7日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「新人演奏会受賞者コンサート」	常陽藝文センター	180人
11月20日(土)	新進演奏家ステップアップ事業 「レクチャーコンサート」(ライブ配信)	小ホール	230人
2月20日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「新人演奏会歴代受賞者コンサート」(動画配信)	小ホール	230人
3月12日(土)	担い手育成事業(地域文化活用) 「いばらきの民話(ミュージカル)」(動画配信)	小ホール	200人
通 年	企画公募型事業(公募・選定)	—	—
計9事業			2,000人

ウ Web を活用した文化振興の拡充

県内の文化芸術等の発信拠点となる Web チャンネルを新たに開設し、コロナ禍で停滞しかけている文化振興の拡充を図る。

項目	内 容
文化活動団体等	団体概要・活動状況の紹介、PR 動画配信
	活動成果発表の動画・ライブ配信
新進演奏家	演奏家プロフィール、PR 動画配信
	演奏技術向上のレッスン動画配信
財団主催事業	演奏会の動画・ライブ配信
文化芸術体験出前講座	レクチャー講座のライブ配信

エ 新進演奏家の支援強化

県内在住・出身の新進演奏家については、これまで通り当財団の自主公演事業での出演をはじめアウトリーチ事業(文化芸術体験出前講座)や市町村等が主催する演奏会への派遣を行っていく。また、新たに開設する Web チャンネル上で、新進演奏家のプロフィールをはじめ提供可能なプログラムや演奏の PR 動画などの紹介により、

派遣要望の拡大を目指す。

オ 受託事業

質の高い様々な文化芸術を鑑賞・体験する文化芸術体験出前講座等を提供し、子どもたちの豊かな感性・情操や創造力・想像力の育成に努める。なお、コロナ禍でも安定した事業を提供するため、映像配信の講座も実施する。また、県内の公立文化施設等を会場に、室内楽演奏会を開催し、クラシック音楽の魅力に触れる機会を提供する。

項目		回数	会場
出前講座	音楽、伝統文化（茶道・華道）、美術、食文化等	100回	県内小中高等学校等
	室内楽演奏会	3回	県内公立文化施設等
合計		103回	—

(2) 県民文化センター指定管理事業

令和3年度から新たに3年間の指定管理者に指定されたことを受け、引き続き、大小ホール、県民ギャラリー、集会室などの多様な利用機会の提供や質の高い鑑賞機会の提供を行い、県民に広く利用されるよう努めるとともに、適切な施設の維持管理を行う。

また、利用者ニーズを的確に反映した事業推進と更なるサービスの向上、新しい生活様式を踏まえた安全安心で快適に施設を利用できる施設運営に努める。

ア 施設の利用見込

新型コロナ感染症の収束の兆しが見えないことから、施設全体の予約キャンセルが後をたたず、利用者数の回復が見込めない状況にある。また、収容率の制限のあるポップス等のコンサートについては、採算性の観点から主催者が開催を延期または中止する状況が見られる。

このような状況下にあっても、県等の感染症防止ガイドラインを遵守して、感染拡大防止対策を徹底し、利用者が安心して施設を利用できるよう努めるとともに、誘客促進を図り利用者確保に努める。

項目	利用者数(人)	利用日数(日)	利用料金(円)	利用率(%)
大ホール	201,000	210	52,883,000	77.3
小ホール	51,200	219	9,401,000	65.6
本館集会室	78,500	302	5,405,000	88.0
分館集会室	35,000	297	9,110,000	86.1
和室(本館)	2,500	150	1,148,000	44.4
一般展示室	59,300	230	5,468,000	67.2
県民ギャラリー	51,000	178	3,156,000	51.3
練習室	1,500	120	359,000	34.9
施設全体	480,000	1,706	86,930,000	64.4

※利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合

イ 鑑賞事業

コロナ禍においても、県民ニーズに的確に応えるため、公演アンケート等の要望を参考に「フジコ・ヘミング＆ウィーン・アーロンカルテット」や「中村勘九郎・七之助錦秋特別公演」など質の高い舞台芸術公演を開催するとともに、様々な年代の方により多く鑑賞していただける公演をバランスよく開催し、多種多様なジャンルの舞台公演に接する機会を提供する。

また、子育て世代の親子が一緒になって鑑賞できる公演の開催や市民参加型の演劇の開催、学生を対象とした割引料金の設定などにより、舞台公演の鑑賞を後押しする。

なお、Webチケット販売システムの導入により利便性の向上を図りつつ、同システムの顧客情報や公演アンケートのデータを基に、ホームページやSNSなどの各種広報媒体を活用した情報発信や団体訪問等を行い、新規鑑賞者の開拓とリピーターの確保に努める。

月 日	公演名	会 場	入場者数 (有料)
5月 20日(木)	フジコ・ヘミング&ウィーン・アーロンカルテット	大ホール	1,300人
5月 23日(日)	渡辺美里 Tour 2021	大ホール	700人
6月 16日(水)	落語二人会（柳家喬太郎、春風亭一之輔 ほか）	大ホール	1,000人
6月 27日(日)	しまじろう英語で遊ぼう（3回公演）	大ホール	1,400人
7月 28日(水)	爆笑寄席（三遊亭円楽、林家たけ平 ほか）	大ホール	750人
8月 1日(日)	恐竜動物園（2回）	大ホール	1,400人
8月 14日(土)	それゆけ！アンパンマンミュージカル（3回）	大ホール	1,400人
8月 29日(日)	華麗なるクラシックバレエハイライト (白鳥の湖、ドン・キホーテなどより抜粋)	大ホール	1,000人
9月 12日(日)	南こうせつコンサートツアー	大ホール	700人
9月 25日(土)	だいすけお兄さんの世界の迷作劇場（2回）	大ホール	1,400人
10月 1日(金)	平原綾香コンサート	大ホール	700人
10月 10日(日)	中村勘九郎・七之助 錦秋特別公演（2回）	大ホール	1,400人
11月 28日(日)	和楽器バンドコンサートツアー	大ホール	700人
12月 5日(日)	演劇「注文の多い料理店」（2回）	小ホール	300人
12月 12日(日)	高嶋ちさ子12人のヴァイオリニスト	大ホール	1,300人
12月 19日(日)	クリスマス・ゴスペルコンサート	大ホール	1,000人
1月 29日(土)	情熱のタンゴ・愛のシャンソン	小ホール	250人
2月 12日(土)	藤井フミヤ コンサートツアー	大ホール	700人
3月 13日(日)	笑いイチ（サンドウィッチマン ほか）	大ホール	1,300人
計19事業			18,700人

ウ 施設の利用促進とサービスの向上

(ア) 新規利用者（団体等）及びリピーターへの利用促進

催事及び施設の空き状況等の最新情報をホームページ等で提供するほか、関係団体と連携して会員等へ施設利用の案内を配布する。また、利用実績のある団体等については、業種別にメール等で空き情報や新規サービスの案内チラシを提供するなどして施設の利用促進を図る。その他、動画配信設備の具体的な活用方法をホームページ等に掲載し、主に学校行事や吹奏楽演奏会等での設備活用を紹介・案内し、施設利用の促進を図る。

さらに、コンベンション機能や映像配信機能を利用して開催する全国大会やブロック大会等を誘致するための営業活動を行うとともに、コンベンション機能を紹介する催事を開催し、更なる施設の利用促進を図る。

閑散期の利用促進策として、現在、大ホール・小ホール・展示室・県民ギャラリー・和室（大・小）の1月期施設利用料を割り引いており継続する。

(イ) 各団体との連携による利用促進

コンベンション等の誘致について、茨城県及び水戸市、水戸観光コンベンション協会などの関係機関と定期的に会議を開催し、全国会議や国際会議の開催情報把握や現状分析、今後の営業戦略について情報交換・検討を行い、誘致促進員とともに積極的に営業活動を展開し誘致する。

その他に、茨城文化団体連合など各文化団体や茨城県公立文化施設協議会及び全国公立文化施設協会との連携による加盟施設館との情報共有や、文化施設の職員を対象とした企画や技術及び管理者の専門講習会・研修会を開催、県内施設職員の技術向上を図るとともに先導的役割を担っていく。

(ウ) サービスの向上

分かりやすいホームページの構築に努めるとともに、Webでのチケット販売や施設申込資料等を入手できるようにするなどサービスの向上を図る。

なお、施設予約については、電話及び窓口のみでの対応となっており、Web等での受付により24時間予約受付ができる仕組みを検討し、利便性の向上を図る。

また、大・小ホール、展示室、集会室等の案内をタブレット等の電子媒体を活用して画像・映像で紹介し、利用者がイメージしやすいよう対応する。

(エ) 県民文化センター友の会の運営

コロナ禍などにより会員数が減少傾向にあることなどから、会員等のニーズを踏まえた公演の開催に努めるほか、魅力ある会員向け事業企画や新たな特典等を用意する。なお、Webでの入会手続きやチケットの購入等、利便性の向上と入会しやすい環境を整備して、継続して会員の確保に努める。

エ ピアノを活用した参加事業

世界の三大ピアノであるピアノ「スタインウェイ」を活用した参加事業を、年間10回実施する。なお、新たな試みとして、参加者が持ち込んだ楽器とのアンサンブル演奏等や、DVD等への録音・録画等の提供を行ふとともに、若手演奏家等を活用した参

加者へのレッスン等を行い、参加者の演奏力の向上に寄与と担い手の育成を促進する。

オ 安全・安心で快適な施設づくり

開館後 55 年が経過し、施設の長寿命化を図るため、県と協議のうえで修繕計画を策定し、計画的な修繕を実施する。利用者の声を反映させながら、危険箇所の早期発見、事故の未然防止に努める。なお、緊急性の高い修繕箇所については、優先して迅速に修繕を実施するとともに、大規模な修繕項目に関しては設計業者に委託し整備項目の抽出等を行い、県と協議しながら進めていく。

また、今年度は、本館屋内消火栓修繕の修繕をはじめ、安全確保の観点から機械室防油堤設置工事など、機能保全や安全性の向上を図り、利用者に優しい快適な施設づくりに努める。

(ア) 施設設備計画

主な修繕箇所（指定管理修繕工事予定）

・本館機械室防油堤設置工事	600 千円
・本館屋内消火栓修繕	470 千円
・レストラン入口通路屋根ガラス交換	250 千円
・大・小ホールバトンワイヤー交換工事	1,700 千円
・本館スプリンクラー制御盤改修工事	2,300 千円
・本館機械室漏水対策工事（本館地下）	3,500 千円
・本館事務所前駐車場舗装工事	4,000 千円
・小ホール入口ピロティタイル改修	2,000 千円
他 8 件 合計 16 件	102,193 千円

(イ) 危機管理対策

不特定多数の利用が見込まれることから、消防法に基づく年 2 回の避難訓練を実施し、利用者の安全確保に努める。なお、災害時等の緊急時対応は、火災や地震、風水害それぞれにマニュアルを定め、全職員及び業務委託先等に配布・周知し、役割分担に基づく避難誘導及び初期消火等を行い、利用者の安全確保に努める。

2 収益事業 1（県民文化センター自主事業）

新型コロナ感染症の影響が一定程度続くこと見込まれることから、県民文化センター全体の利用者と同様、売店及び駐車場利用者も伸び悩みが予想されるが、利用促進策や経費見直し等により収支改善に努める。

(1) 売店事業

売店事業は、収益の確保が難しい状況にあるが、売店営業の案内を集会室等に掲示、来館者へ利用呼びかけをするほか、ホームページでの紹介も行い利用率を高めるとともに、商品の充実及び商品配列を工夫し、客単価増に努める。

また、過去の利用データを改めて分析し、売店営業日及び営業時間を見直す等、効率的な運営に努める。

(2) 駐車場事業

千波公園・ザ・ヒロサワ・シティ会館前駐車場は、当館利用者のかた、近代美術館及び千波湖周辺等への利用者にも多く利用されており、利用者が安全・安心に駐車場が利用できるよう催し物に合わせ適切に警備員を配置し、親切丁寧な案内・誘導に努める。

また、駐車場利用状況表示板改修等、計画的な整備を進め、利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営に努める。さらに、施設全体の利用を促進するとともに、駐車場事業の経費見直し等を行っていく。

3 公益目的事業2（水族館事業）

(1) 水族館の運営

令和2年12月18日に、開館以来の大規模リニューアルオープンを果たし、新たな魅力発信のため、春に向けて積極的なプロモーションを予定していた矢先、さらなる新型コロナ感染症の影響による観光事業の落ち込みにより、入場者数の減少、減収という厳しい状況が続いている。

現在も、新型コロナ感染症の収束は依然として見通せないが、令和3年度は開館20周年の年にあたることから、リニューアル効果と併せて大規模な記念事業を行い、「さあ、新世海！ NEW WORLD NEW AQUAWORLD」をビジョンに運営を行い、入場者の確保及び増員を図っていく。

項目	上半期	下半期	計
一般	367,052人	243,764人	610,816人
団体等	122,188人	102,986人	225,174人
年間パスポート	6,660人	5,500人	12,160人
年間パスポート2回目以降	24,350人	27,350人	51,700人
有料入場者計	520,250人	379,600人	899,850人
無料入場者	59,900人	51,800人	111,700人
総入場者数	580,150人	431,400人	1,011,550人

(2) 飼育展示事業

基本テーマ「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に基づき展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての一翼を担う。

ア 魚類展示

お客様、生きもの、スタッフの安全・安心を第一に考え、水族館の4つの目的（調査研究、教育、種の保存、レクリエーション）に沿って「既存展示の魅力度アップ」、「新規生物の導入」、「サメの展示の充実」を実施する。

また、飼育展示技術の開発、継承・人材育成を図りながら、誰もが「何度も来たくなる・何度も見たくなる」展示を目指す。

(ア) 展示生物の見直しによる魅力度アップ

話題性・注目度の高い生物等を中心に補充を行うとともに、生物整理を行い

より効果的な展示を目指す。また、マイワシ 10,000 尾以上の常時展示を目指し、これらのマイワシを用いた演出「マイワシトルネード（仮称）」を季節に合わせたテーマで行い展示の目玉としていく。

(イ) 映像を使った解説動画の作成

表示板だけでは伝えきれない生物の生態映像を活用した解説や通常の展示では見せることのできない貴重なシーンを撮影・放映し、生物への興味喚起を行う。

(ウ) サメの繁殖研究・展示

卵生サメ類の繁殖をさらに推進するために親魚の確保を行うとともに、次年度に現副調餌室を利用した展示「サメの培養室」へ向けた整備を行う。

(エ) フィールドでの生物の採集

定期的に乗船収集等を行い、収集した生物を用いて季節感のある展示を目指すとともに、マンボウ・サメの補充と茨城県産魚類の調査研究に役立てる。

(オ) 深海生物・サメなどの新規展示・導入・補充

日本最多のサメの展示種数を維持するため、中期展示計画に則って収集・購入等を積極的に行っていく。

(カ) 経年劣化した水槽の改修

経年劣化により展示生物の魅力を損なうまでになってしまった水槽を補修し、リフレッシュを図り、展示効果を高める。（海藻水槽擬岩、おもしろ生物水槽 他）

イ 海獣展示

既成概念にとらわれない発想で、生物展示・ショー・イベント等を企画実施するとともに、来館者にとって一度きりの特別な体験プログラムを提供し、より充実度を向上させ、リピーターを確保する展示を目指す。

(ア) プログラム・イベントの見直しによる魅力度アップ

昨年 12 月からスタートした「オーシャンナイトライブ」をリニューアルし、光と音の演出による幻想的なショーを提供するとともに、「イルカと泳ごう」、「ペンギン給餌体験」等、参加体験型プログラムを拡充する。

(イ) 鯨類の自然繁殖推進と人工授精技術の確立

ホルモン動態の調査を継続し、妊娠候補個体を選定したうえで自然交配を促す。妊娠確定後は、出産に向けた環境整備を速やかに整え、母獣が落ち着いて出産に臨めるようにする。また、雄個体の精液保存に向け、県肉用牛研究所と共同で希釀液の精製や凍結方法等を検証し、人工授精に備える。

(ウ) アシカ・オットセイの訓練強化、ショー出演個体増と解説プログラムの充実

カリフォルニアアシカについては複数頭でのショー出演を目指し訓練を進める。

また、ミナミアメリカオットセイについては、体温測定、採血等のハズパンダリートレーニングを優先的に進めながら、解説中に実施する演技種目の拡充を目指す。

(エ) 鰐脚類、鳥類、カワウソの自然繁殖推進

カリフォルニアアシカ、フンボルトペンギン、エトピリカについては、個体数の安定が図られているため継続。カナダカワウソについては、雌個体2頭を導入したことにより、繁殖の期待は高まっている。個体同士の関係を注視し、発情の兆候、交尾行動などを把握するとともに、落ち着いて出産に臨める環境を整備する。

(オ) アシカ・ペンギン・カワウソの触れ合い展示に向けた訓練強化

カリフォルニアアシカについては、オーシャンシアターでのふれあいの他、屋外展示プールの整備後、展示場にお客様を招いてのふれあいを計画する。なお、フンボルトペンギンについては、写真撮影や握手といったふれあいに参加できる個体を確保するため、計画的に人工育雛を実施する。また、カナダカワウソについては、次年度以降のふれあい実施に向け、係員以外からの給餌や握手等を訓練していく。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から受託した水系展示水槽の適切な管理を行うとともに、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を行う。

(3) 教育普及事業

みんなの「知りたい」を満足させる水族館を目指し、館内での解説・レクチャー、館外での活動を行うことを通して、来館者の満足度アップに貢献し、リピーターの確保に努める。また、学校を対象とした事業においては、感染症の状況に左右されないリモートでの事業についても検討することで、学校関係の誘客・利用促進に努めたい。

ア 発見体験学習の実施

事前募集型の「自然体験塾」として、12講座23回の開催を予定。

昨年度まではリーフレット・ポスターによる募集が主であったが、ホームページ上の募集・メールでの受付を行うことで、申込機会の拡充を図るとともに、事務作業・発送費等を削減する。

イ レクチャー及び展示解説の実施

昨年度好評で参加率も高かった有料での「水族館バックヤードツアー」を継続し、参加者の満足度アップと収益の確保に貢献する。また、感染症の状況を見ながら、他のプログラムについても検討する。

ウ コンピューター情報運用管理

館内のタッチパネルに関しては、システム及び機材の老朽化も進むとともに、タッチパネル自体も感染症防止の観点から順次撤去を開始している。現在、残った8台のタッチパネルに関しても3年後までに順次撤去し、情報案内に関しては生物解説アプ

リ「リンネレンズ」への移行を行う。

エ 機関紙「Sea 遊」の発行

館内案内・PR・教育普及を目的とし、年2回（6月、12月）発行を予定し、県内小中学校ほか、図書館などの各機関、栃木県内小中学校への配布を行う。

オ ミュージアムゾーン「シャークダディズルーム」の運用管理

昨年12月にリニューアルした、サメをテーマとした新感覚展示エリア「シャークダディズルーム」を普及プログラムや催事等で最大限に活用し、当館の魅力向上促進に努める。

カ 自然教室等への講師派遣

学校教育機関などよりの依頼を受け、随時対応する。Web会議システム等を利用したりモートでの講師派遣等にも積極的に対応する。

キ 実習生・研修会等の受入れ

主に中・高校生の職場体験、大学生の実習など、依頼を受け柔軟に対応する。

ク 生物解説アプリ・多言語アプリの導入

生物解説アプリ「リンネレンズ」については、運用を継続し、展示変更等での情報更新も積極的に行ない、情報発信の充実に努める。多言語アプリに関しては、リニューアルに伴い展示と一部適合しない部分が出てきたため、随時更新していく。

ケ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、大洗水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」と連携を深め、活動支援を行っていく。

コ 大子町との連携事業の推進

昨年度は感染症拡大に伴い中止となってしまったが、双方における連携事業を検討し柔軟に対応していく。

(4) 誘客促進事業

令和3年度は、昨年度リニューアルオープンした関東最大級のクラゲ大水槽「くらげ365」やシャークダディズルーム、オーシャンナイトライブなどの新ブランドとその魅力を継承し、「さあ、新世海！ NEW WORLD NEW AQUAWORLD」をビジョンに運営を行い、気持ち新たに再出発する。

入場者数推移については、今までの上期依存を少しでも下期に分散させ、年間を通じた魅力あるイベントを展開し、月の上下幅が少ない安定した入場者数の確保を図る。

また、チケットや館内マップなどを電子化することで、非接触・分散化を図り、アフターコロナの新しい水族館運営を行っていく。さらに、広報宣伝においても、電子化を進めていく、紙媒体によるPRからWEB PRによるニュース配信を積極的に行うなど、館全体としてデジタル化を推し進めていく。夜営業においては、令和2年度

は、県内のお客様の割合が非常に高かったことから、今後は旅行業者や宿泊施設向けの商品を開発することで連携を強化し、より広い地域からの集客へ結び付けていく。

ア イベント

5月からは、「アクアワールド・ライブ（仮称）」イベントを実施する。また、夏には野外イベントを模した「アクアワールド・夏フェス（仮称）」、秋から冬にかけては「アクアワールド・オータムフェア（仮称）」イベントや「アクアワールド・クリスマス（仮称）」イベントを開催する。年明けには、県からの補助金を利用して開館20周年事業「異業種とのコラボ企画（仮称）」を開催することで、令和3年度は、年間を通じて開館20周年を盛り上げていく。さらに、夜営業については、通常の NIGHT AQAUWORLD だけでなく、地元企業連携型やレクチャー型等、お客様の様々なニーズに対応できるようバラエティに富んだ内容で週末を中心を開催していく。

イ プロモーション

ブランド浸透を図るため、ビジョンである「さあ、新世海！」を積極的に使用し、HPやSNSをはじめ、外部プロモーション全般に年間を通じて配信する。

また、その外部発信については、お客様のライフスタイルに合わせ、PR方法を選定し、紙媒体からWebを使ったPRへの移行を加速させる。そして、社会のトレンドやニュースをアンテナ高く読み取って、話題化、差別化を常に意識し、提供することで好奇心を刺激し誘客につなげていく。

ウ オペレーション

来館者との非接触と分散化の実現させるため、繁忙期を中心に、時間帯別Webチケットを販売するとともに、最新の入場カウンターを設置することで館内滞留者数をより正確に把握し、アフターコロナにおけるV字回復の準備を進めていく。窓口においては、脱現金化の促進を進めるため電子マネー決済を開始する。また、館内のペーパーレス化を図るため、館内マップについても電子化を進める。

エ セールス

新商品を開発し、旅行業者や宿泊施設との連携強化を図る。特に夜営業については、県内のお客様の割合が非常に高いため、今後は県外のお客様の割合を高めていく必要がある。県内外の旅行業者や地元の宿泊施設と連携し、宿泊とのセットプランを新規開発することで、県外のお客様の取り込みを積極的に行う。

また、当館は学校などの団体において有力な遠足の候補地であるが、令和2年度は、新型コロナ感染症の影響により団体数が激減したことから、令和3年度は各団体の誘致活動を再開する。

（5）管理運営部門

開館からの年数が経過するとともに修繕費用が増加し、近年、計画修繕工事分は積立資産を充当して対応してきた。しかしながら、積立資産の残高も目減りしたほか、令和2年度はコロナ禍により収入が激減しており、これ以上の積立資産減少は避けなければならない。また、業務分担を事業系・管理系に区分し、今まで以上に入場者目

線のサービスを行うとともに、効率的な業務遂行を試行していく。

今後、より一層の財務健全化を図っていく必要があるため、次の対策を実施していく。

ア 収入確保対策

海洋文化の発展に寄与することを目的とした団体の助成金等の活用など、新たな収入源を開拓していく。また、入場者が生物と触れ合う機会を提供できる新たな有料プログラムの開発を目指していく。

イ 経費節減対策

グループウェアの活用など、事務の電子化及びペーパーレス化の推進を図り、経費節減に繋げていく。また、毎月の予実管理の実施により、効率的な予算管理を行うことで、経費節減を図っていく。

ウ 施設設備の計画修繕対応

県有財産である水族館を管理するにあたり、長寿命化を見据えながらも、腐食や老朽化による施設設備の修繕に対応し、安全安心かつ清潔さを保つ施設管理を行う。

外壁塗装改修工事	27,433 千円
空調機更新工事（AC-307、308、403、507）	40,235 千円
非常照明設備更新工事	37,374 千円
非常照明用蓄電池設備更新工事	20,791 千円
外壁塗装改修設計（令和3年度工事）	1,573 千円
畜養棟ヒートポンプチラー更新工事	45,925 千円
ペンギン水槽陸上部擬岩改修工事	16,500 千円
屋外アザラシ水槽改修工事	18,040 千円
ペンギン水槽階段(北側)ウッドデッキ修繕工事	999 千円
駐車場警備員詰所更新	918 千円
計 10 件	209,788 千円

4 収益事業2（水族館売店事業）

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門及びリニューアルオープンしたシャークダディズルーム内のコレクターズショップ、リラックスカフェの運営を行う。また、昨年から実施された「プラスチック製レジ袋の有料化義務化」に適正に対応した取り組みを推進し、SDGsで掲げられている海の豊かさを守る活動の一環として、プラスチック類の削減等社会的役割を果たす。

(1) 「スープニアショップ“モラモラ”」の運営

イベントに関連したオリジナル商品の開発・販売促進に努める。特に、話題性のあるキャラクター等、PR効果を含めた展開を心掛ける。なお、導入に際しては、店舗内装飾や商品の配置換え等も行い、リピーター層にも満足してもらえる店舗作りに努め、収入増を図る。

(2) 「コレクターズショップ“ガレオス”」の運営

館内店舗ならではの専門性のある商品構成や、高クオリティ化の推進を図るとともに、リニューアルのメインである「クラゲ」に特化した商品のアイテム数を増やし、同時に高品質の品揃えをすることで、単価アップも図りながら店舗展開を進める。

(3) 「リラックスカフェ“マーメイド”」の運営

リニューアル後のメニューを基本に、イベントや季節に合わせた新メニューを考案し、更なる利用促進を図る。また、ナイト営業の定着に向けた、夜限定メニューの開発により、店舗のイメージアップと共に、集客を図りながら売り上げを確保する。

更に、「シャークダディズルーム」のイメージに則し、且つSDGsを考慮したプラスチック製食器やカップの見直しを図り、環境問題への取り組みもアピールする。

5 法人運営

新型コロナ感染症により、県民文化センター及び大洗水族館の両集客施設の厳しい状況の中でも、常に効率効果的な事業手法の導入や管理的経費の徹底した削減などの推進に努め、継続的なPDCAマネジメントサイクルにより公益目的事業の充実に向けた財産基盤及び経営基盤の強化を図る。

なお、職員については、様々な変化にも柔軟に対応しながら業務を推進し、財団の役割や使命を十分に果たすことができる人材の確保から育成までの仕組みを整えていく。

また、管理職員をはじめ職員個々の成果や実績をPDCAマネジメントサイクルにより適正に評価し、給与等に反映させる能力・業績評価制度を継続実施するとともに、表彰制度の活用を推進し組織の活性化をはじめ職員の士気高揚と生産性の向上を図る。

II 収 支 予 算

- 令和3年度公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書（損益ベース） 15 ~ 16
- 令和3年度公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書（損益ベース）内訳書 17 ~ 18
- 公益財団法人いばらき文化振興財団令和3年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書 19

令和3年度 正味財産増減予算書(損益ベース)
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当年度予算	前年度予算	減 増
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産等運用益	312	313	△ 1
② 特定資産運用益	2,034	2,097	△ 63
③ 事業収益	2,326,113	2,691,234	△ 365,121
自主公演入場料収益	5,661	29,483	△ 23,822
受託公演入場料収益	150	250	△ 100
手数料収益	9,392	12,188	△ 2,796
負担金収益	2,200	2,200	0
文化芸術創造・発信事業委託金収益	26,091	26,106	△ 15
県民文化センター指定管理収益	193,426	193,426	0
県民文化センター利用料収益	86,930	99,355	△ 12,425
自然博物館水系展示水槽 管理委託金収益	16,596	16,027	569
水族館入場料収益	1,311,704	1,540,328	△ 228,624
売店収益	652,527	743,984	△ 91,457
駐車場利用料収益	21,436	27,887	△ 6,451
④ 受取補助金等	130,748	59,380	71,368
受取財団運営費補助金	52,691	52,691	0
受取助成金	3,057	6,689	△ 3,632
受取水族館開館20周年事業補助金	75,000	0	75,000
⑤ 雑収益	21,538	13,313	8,225
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0
経常収益計(A)	2,480,745	2,766,337	△ 285,592
(2) 経常費用			
① 事業費	2,287,303	2,818,056	△ 530,753
文化活動団体等助成金	20,000	18,635	1,365
役員報酬	12,181	12,938	△ 757
給料手当	544,592	606,208	△ 61,616
臨時雇賃金	4,867	13,781	△ 8,914
福利厚生費	6,787	7,117	△ 330
法定福利費	90,760	96,563	△ 5,803
報償費	9,906	13,360	△ 3,454
旅費交通費	6,031	12,362	△ 6,331
接待交際費	40	72	△ 32
消耗品費	46,266	72,684	△ 26,418
燃料費	46,553	55,311	△ 8,758
会議費	693	1,376	△ 683
印刷製本費	15,248	25,670	△ 10,422
光熱水費	188,499	190,422	△ 1,923
修繕費	30,936	56,499	△ 25,513
飼料費	28,556	26,046	2,510
医薬材料費	1,459	1,582	△ 123
賄材料費	34,571	36,261	△ 1,690
通信運搬費	5,490	7,864	△ 2,374
広告宣伝費	4,302	44,428	△ 40,126
支払手数料	56,300	75,280	△ 18,980
保険料	1,917	2,093	△ 176
委託費	626,929	625,255	1,674
賃借料	28,205	63,364	△ 35,159
工事請負費	42,377	8,951	33,426
原材料費	305,997	388,816	△ 82,819
生物購入費	14,063	16,967	△ 2,904
支払負担金	4,225	4,437	△ 212
租税公課	77,812	67,458	10,354
退職給付費用	21,432	27,284	△ 5,852
雑 費	20	50	△ 30
修繕工事負担金	0	231,641	△ 231,641
県納付金	150	250	△ 100
減価償却費	10,089	7,031	3,058

(単位:千円)

科 目	当年度予算	前年度予算	減 増
② 管理費	15,542	16,727	△ 1,185
役員報酬	1,682	2,693	△ 1,011
給料手当	4,272	3,214	1,058
臨時雇賃金	0	0	0
福利厚生費	38	6	32
法定福利費	842	783	59
旅費交通費	2	120	△ 118
接待交際費	40	28	12
消耗品費	901	707	194
燃料費	30	4	26
会議費	39	284	△ 245
印刷製本費	664	780	△ 116
光熱水費	160	0	160
修繕費	100	71	29
通信運搬費	495	334	161
広告宣伝費	151	58	93
支払手数料	699	155	544
保険料	368	46	322
委託費	785	295	490
賃借料	1,051	1,107	△ 56
支払負担金	1,423	1,049	374
租税公課	65	52	13
退職給付費用	1,688	4,077	△ 2,389
減価償却費	47	864	△ 817
経常費用計(B)	2,302,845	2,834,783	△ 531,938
当期経常増減額(A)-(B)	177,900	△ 68,446	246,346
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計(C)	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除去損			
固定資産売却・除却損	0		0
経常外費用計(D)	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0
当期一般正味財産増減額	177,900	△ 68,446	246,346
一般正味財産期首残高	1,064,863	1,334,178	△ 269,315
一般正味財産期末残高	1,242,763	1,265,732	△ 22,969
II 指定正味財産増減の部			
① 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	565,000	0
指定正味財産期末残高	565,000	565,000	0
III 正味財産期末残高	1,807,763	1,830,732	△ 22,969

令和3年度 正味財産増減予算書(損益ベース)内訳表
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 文化セセシナント事業	収2 水族館売店事業	小計		
I 一般正味財産増減の部								
1 経常増減の部								
(1) 経常収益								
① 基本財産等運用益	312	0	312	0	0	0	0	312
② 特定資産運用益	1,912	105	2,017	7	6	13	4	2,034
③ 事業収益	313,496	1,328,300	1,641,796	35,743	648,574	684,317	0	2,326,113
自主公演入場料収益	5,661	0	5,661	0	0	0	0	5,661
受託公演入場料収益	150	0	150	0	0	0	0	150
手数料収益	7,992	0	7,992	1,400	0	1,400	0	9,392
負担金収益	2,200	0	2,200	0	0	0	0	2,200
受託公演委託金収益	26,091	0	26,091	0	0	0	0	26,091
県民文化センター指定管理収益	193,426	0	193,426	0	0	0	0	193,426
県民文化センター利用料収益	77,976	0	77,976	8,954	0	8,954	0	86,930
自然博物館水系展示水槽管理委託金収益	0	16,596	16,596	0	0	0	0	16,596
水族館入場料収益	0	1,311,704	1,311,704	0	0	0	0	1,311,704
売店収益	0	0	0	3,953	648,574	652,527	0	652,527
駐車場利用料収益	0	0	0	21,436	0	21,436	0	21,436
④ 受取補助金等	40,210	75,000	115,210	0	0	0	15,538	130,748
受取財団運営費補助金	37,153	0	37,153	0	0	0	15,538	52,691
受取助成金	3,057	0	3,057	0	0	0	0	3,057
受取水族館開館20周年事業補助金	0	75,000	75,000	0	0	0	0	75,000
⑤ 雜収益	1,540	12,428	13,968	0	7,570	7,570	0	21,538
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計(A)	357,470	1,415,833	1,773,303	35,750	656,150	691,900	15,542	2,480,745
(2) 経常費用								
① 事業費	356,564	1,356,539	1,713,103	35,636	538,564	574,200		2,287,303
文化活動団体等助成金	20,000	0	20,000	0	0	0		20,000
役員報酬	3,045	7,940	10,985	0	1,196	1,196		12,181
給与手当	115,182	336,091	451,273	8,591	84,728	93,319		544,592
臨時雇賃金	65	1,658	1,723	0	3,144	3,144		4,867
福利厚生費	1,668	4,150	5,818	88	881	969		6,787
法定福利費	19,738	57,185	76,923	1,257	12,580	13,837		90,760
報償費	9,406	500	9,906	0	0	0		9,906
旅費交通費	3,287	2,649	5,936	0	95	95		6,031
接待交際費	0	33	33	0	7	7		40
消耗品費	6,790	22,920	29,710	90	16,466	16,556		46,266
燃料費	3,476	37,383	40,859	0	5,694	5,694		46,553
会議費	290	328	618	0	75	75		693
印刷製本費	5,012	8,293	13,305	60	1,883	1,943		15,248
光热水料費	20,801	142,970	163,771	2,910	21,818	24,728		188,499
修繕費	15,500	13,193	28,693	968	1,325	2,293		30,986
飼料費	0	28,556	28,556	0	0	0		28,556
医薬材料費	15	1,253	1,268	0	191	191		1,459
賄材料費	0	0	0	0	34,571	34,571		34,571
通信運搬費	2,280	2,512	4,792	3	695	698		5,490
広告宣伝費	486	3,110	3,596	0	706	706		4,302
支払手数料	5,400	38,616	44,016	372	11,912	12,284		56,300
保険料	470	882	1,352	170	395	565		1,917
委託費	95,724	507,438	603,162	16,266	7,501	23,767		626,929
賃借料	10,815	13,664	24,479	518	3,208	3,726		28,205
工事請負費	0	42,282	42,282	0	95	95		42,377
原材料費	0	0	0	2,689	303,308	305,997		305,997
生物購入費	0	14,063	14,063	0	0	0		14,063
支払負担金	394	2,543	2,937	9	1,279	1,288		4,225
租税公課	10,790	45,463	56,253	844	20,715	21,559		77,812
退職給付費用	5,364	12,554	17,918	670	2,844	3,514		21,432
雑費	0	20	20	0	0	0		20
修繕工事負担金	0	0	0	0	0	0		0
県納付金	150	0	150	0	0	0		150
減価償却費	416	8,290	8,706	131	1,252	1,383		10,089

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合 計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 文化自 セ主 ン事 タ ー	収2 水族館売店事業	小計		
(2) 管理費							15,542	15,542
役員報酬							1,682	1,682
給料手当							4,272	4,272
臨時雇賃金							0	0
福利厚生費							38	38
法定福利費							842	842
報償費							0	0
旅費交通費							2	2
接待交際費							40	40
消耗品費							901	901
燃料費							30	30
会議費							39	39
印刷製本費							664	664
光熱水費							160	160
修繕費							100	100
通信運搬費							495	495
広告宣伝費							151	151
支払手数料							699	699
保険料							368	368
委託費							785	785
賃借料							1,051	1,051
支払負担金							1,423	1,423
租税公課							65	65
退職給付費用							1,688	1,688
減価償却費							47	47
経常費用計(B)	356,564	1,356,539	1,713,103	35,636	538,564	574,200	15,542	2,302,845
当期経常増減額(A)-(B)	906	59,294	60,200	114	117,586	117,700	0	177,900
I2 経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計(C)	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
① 固定資産除去損	0	0	0	0	0	0	0	0
② 固定資産除却損	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額(E)	11,470	45,429	56,899	0	△ 56,899	△ 56,899	0	0
当期一般正味財産増減額	12,376	104,723	117,099	114	60,687	60,801	0	177,900
一般正味財産期首残高	95,366	607,553	702,919	41,923	319,645	361,568	376	1,064,863
一般正味財産期末残高	107,742	712,276	820,918	42,037	380,332	422,369	376	1,242,763
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
① 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
指定正味財産期末残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
III 正味財産期末残高	672,742	712,276	1,385,018	42,037	380,332	422,369	376	1,807,763

令和3年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1. 資金調達の見込み

借入予定の有無 なし

2. 設備投資の見込み

(単位:千円)

事業番号	設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
取 得	企画展用サメ剥製	660	自己資金
	冷蔵庫	262	自己資金
	フンボルトペンギン剥製・骨格標本製作(幼鳥)	300	自己資金
	年間バスポート発行機一式	600	自己資金
	公2・取2 駐車場警備員詰所	920	自己資金
計		2,742	

3. 特定資産残高の見込み

(単位:千円)

特定資産の区分	積立金の残高及び増減の見込み額			
	前期末残高 (A)	当期増加額 (B)	当期減少額 (C)	当期末残高 (A)+(B)-(C)
(1) 退職給付引当資産	532,569	23,120	20,000	535,689
(2) 助成事業積立資産	535,000	0	0	535,000
(3) 文化振興事業積立資産	58,333	0	0	58,333
(4) 施設設備修繕等積立資産	216,271	0	0	216,271
(5) 事業資金積立資産	213,394	0	0	213,394
(6) 緊急時対応積立資産	121,410	0	0	121,410
(7) 特定費用準備資金	53,671	0	19,678	33,993
文化活動助成事業資金	(53,671)	(0)	(19,678)	(33,993)
(8) 資産取得資金	127,963	0	2,742	125,221
減価償却資産取得資金	(127,963)	(0)	(2,742)	(125,221)
合 計	1,858,611	23,120	42,420	1,839,311